

I 体育 研究テーマ

自他の課題を解決する中で、運動との多様な関わり方のよさを実感する子どもを育む学び

II 研究の重点

こつの捉え直しに向かう姿を引き出すための支援の工夫

III 3年次の成果と課題

1. 成果

(1) 自分や友だちの動きを客観視し、動きのこつや課題を見付けるための学習過程の工夫

運動を「する」だけでなく、「知る」「見る」ということも大切にして学習を進めたところ、動きのこつを見付け、課題解決に生かそうとする姿が運動の得意、苦手に限らず、多くの子どもに見られたことが成果である。「知る」「見る」を大切にするために、学習形態の工夫やICTの活用などを行った。

3年の跳び箱運動の学習では、単元の最初に6年生が跳び箱を跳んでいる動画を見せた。助走から着地まで美しい演技である。子どもたちは動画を見た瞬間に、「踏切りが強い」「跳び箱の奥にちゃんと手がついてる」など、よいところを見付け、言語化する姿が見られた。子どもの発言を「動きのこつ」としてまとめ、共通理解を図った。演技をする人、アドバイザー、撮影者の役割を分担できるように3～4人でグルーピングをして学習を進めた。すると、子どもが自発的に動画を見返し、自分の動きとお手本の動きを比較しながら改善点を探したり、友達のよい動きを見て、動きのこつを発見したりする姿が見られた。

6年の表現運動の学習では、自分たちの動きを目線と同じ高さからの映像と俯瞰で捉えた映像を見返して自分たちが表現したいことが見た人に伝わるものになっているかを振り返る場を設けた。「俯瞰して見るとある程度綺麗だが、目線と同じ高さから見ると何をしているか伝わらない」「客観的に見ると、何をしているか分からない」と隊形や動きの改善につなげていた。

このことから、運動にひたすらに取り組ませるだけでなく、教師が意図をもって、教材や自分の動きと向き合う時間を十分に設けることが大切だと分かった。ゴールとしてふさわしいが、実現不可能でもなく追究したくなるようなレベルの手本と、様々な視点からの映像や複数の他者からの意見や感想などが効果的であると考えられる。

(2) 身に付けた動きのこつを生かすことができる学習過程の工夫

身に付けた動きのこつを個人の中の学び、その単元の中の学びにするのではなく、友だちの学びや他の単元の学びにつなげることで、落としきれない大事なこつや、あらゆる状況に活用できるこつに気づき、活用しようとする姿が見られたことが成果である。具体的には、次のような手立てを講じた。

マット運動や跳び箱運動の学習では、取り扱う全ての技の連続写真を載せた学習カードを作成した。自分が見付けたこつを書き込んだり、全体で共有したこつの中で、自分に必要だと思ったものを書き足したりすることに使った。また、書き込むルールとして、特に跳び箱運動の場合には、「助走」「踏み切り」「着手」「着地」の4つの場面ごとにこつを記録するようにした。すると、「助走」は、「速ければ速い方がよい」と思っていた子どもが、台上前転を行う際には、「速すぎると自分の体をコントロールできず、難しくなる」というように、技によってのこつの違いに気付いた。また、着地をピタッと止めるためには、「どの技をするときも膝を曲げてクッションみたいにすることが大切だ」とこつの共通性にも気付くことができた。また、「踏み切りを力強くするには速いスピードで助走することが大事だ」と幅跳びでの学びと関連付ける児童もいた。

6年のボールゲームの学習では、ゴール型、ネット型を主に取り上げて学習をしたが、「ボールが来る位置に動くと次の動きにつなげやすくなる」「ボールに触っていない人が自由に動けるから、その人たちの位置が大事だ」というどちらの型にも共通した動きのこつに気づき、活用する児童が見られた。また、以前に学習をしていたベースボール型のボールゲームともつなげながら「隙間があるとそこを狙われる。守る時は隙間を作らないようにポジションを決めると効果的だ。」という考えを子どもが導き出していた。

このことから、動きのこつを書き残したり、全体で共有したりすることをどの単元でも継続して行うことは、学んだ動きのこつを他種目と関連付けて考えることにつながり、自ら学びを進めていくことに寄与すると考えられる。

2. 課題 ゆとりを生む授業のデザイン

3年次は、動きのこつを見付け、共有できる場面や機会を設けた。しかし、そのために運動時間を確保することが難しかった。また、スモールステップの場づくりを工夫することで子どもが自ら選択・決定し、学習を進められるようにしたもの、大きな成長や変化をもたらせそうなタイミングで適切な支援、言葉掛けができていないこともあった。だからこそ、児童が自ら気付く機会を設けたり教師が児童に適切な働きかけができたりするような授業のデザインを探っていきたい。